

研究の概要

20 26 年 6 月 17 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	Reduced Implantation but Comparable Post-implantation Outcomes After Transfer of Mosaic Versus Euploid Embryos Diagnosed by PGT-A or PGT-SR
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック 山本 桜子
研究の目的：	PGT-AおよびPGT-SRは、栄養外胚葉（TE）生検が内部細胞塊（ICM）の染色体状態を反映するという仮定に基づき、移植胚の選択に用いられている。正倍数体胚および異数体胚の移植結果は多くの場合ICMの染色体状態と一致するが、モザイク胚ではモザイクパターンにより不一致を示す場合がある。近年、モザイク率に応じた着床率の変動、ART実施施設間でのモザイク頻度の差、ならびにモザイク胚移植後の健常生児出産が報告されているが、モザイク胚移植の臨床的妥当性については依然として議論が続いている。
調査データ該当期間：	20 20 年 4 月 1 日 ～ 20 24 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2020年4月から2024年12月の間に、単一施設において従来の体外受精または顕微授精（ICSI）により得られた胚を胚盤胞期まで培養し、栄養外胚葉生検と次世代シーケンシングにより解析した。PGT-AまたはPGT-SRにより正倍数体またはモザイクと診断され、移植された胚のうち、293件の単一胚移植の結果を後方視的に評価した。
個人情報の取り扱い：	研究に関する情報には別途、管理番号を与え、管理記録台帳の治療IDと照合しなければ情報が得られないようにする。患者情報はカルテにアクセスし、治療IDで照合しないと得られないため、2段階で保護する。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6978-8824 生殖技術部門・山本 桜子
備考	